



▲『町内のごみ拾い活動』の様子

問3. 活動をしていく中で、良かったと感じたことは何ですか？

家業を継ぐため、都市部から福島町の実家に戻ってきた部員が多いです。しかし、いくら地元といっても、仕事をする上で顔や名前を熟知している訳ではありません。さまざまな青年部事業を通じて、部員同士の交流はもちろんですが、町内外の方々との交流を広げることもでき、各部員がこの町で生活していく上での大切な財産になっていると感じています。



▲『記念講演会』の様子

問4. これまでの活動の中で、印象深かったことはありますか？

私も入部して10年が経ち、思い出深い事業はたくさんありますが、昨年度、創立50周年を迎えたことが特に印象深いです。記念事業として『記念誌の作成』と、元プロ野球選手の森本稀哲氏を招いた『記念講演会』を行いました。近年新しい事業をなかなか実施できなかった中で、主催事業としてたくさんの協力を得ながら、最後まで自分たちで事業をやり遂げられたことが、今後活動をする上で大きなエネルギー源になったと思います。

問5. 活動をする中で、心がけていることはありますか？

仕事を最優先にした上での青年部活動であるべきだと思いますので、仕事をそっちのけにした活動は評価されません。

その中で、活動するために一番必要なことは、家族の理解と協力だと思っています。人間関係が希薄化してきている現代において、仕事だけでなく、青年部員としても活動していくことにより、広く厚い人間関係を築くことができると思います。

問6. 最後になりますが、今後の目標について教えてください！

近年北海道では、後継者不足により商工会青年部が廃部となってしまう町があります。当部でも、廃業や転職などで青年部から離れてしまうケースが増えたように思っています。

また、部員もほとんどが30代後半であるため、5年後、10年後に向けた活動体制の転換期ではないかと感じています。



▲視察研修の様子

いつの時代も、若者が元気であれば地域は盛り上がりします。厳しさも必要ですが、温かく応援していただくことがこれからの力になると思います。果敢にチャレンジし続けられる場所、部員自身が成長し続けられる場所であり続けたいと考えています。